

## 千葉県衛生研究所 情報

# Health 21

この情報誌は、公衆衛生に関する身近な話題、情報をお知らせするものです。

### — 目次 —

◎ 衛生研究所の機関評価	副技監 川口清二郎	1
◎ 違法ドラッグについて	医薬品研究室 長谷川貴志	2
◎ 気候温暖化と千葉県の衛生動物	医動物研究室 藤曲正登	3
◎ 第46回千葉県公衆衛生学会発表演題		4

## 衛生研究所の機関評価

千葉県衛生研究所副技監 川口清二郎

平成 15 年度に開始されました千葉県試験研究機関評価制度により、試験研究機関としての評価を受けて 4 年が経過し今回 2 回目の評価を受けました。

前回は、衛生研究所に与えられた使命を認識し、行政や保健所などとの連携を促進することにより公衆衛生の向上に効率的に取り組むとともに、その存在を広く県民にアピールする必要があるとの評価を受けました。

衛生研究所では地域における保健事業を総合的に支援するため、健康危機管理機能の強化を図ると共にエビデンスに基づいた疫学情報を提供する調査研究に取り組んできました。また、試験検査・調査研究で得た成果を各種学会での発表、学術雑誌への投稿及びホームページの充実などにより広く公表する一方、行政施策への反映と県民の公衆衛生に関する啓発に寄与するための新しい試みに積極的に取り組んできました。

平成 17 年度から健康危機管理をはじめとする保健・医療等に関する情報を一元的に収集・解析・蓄積し、行政関係機関や県民に対して分かりやすく発信するリソースセンター事業に取り組み、衛生研究所ホームページ上で、19 年 1 月から情報の発信を開始しました。更に、18 年 12 月から県民向け公開講座を始め、これまでに生活習慣病予防、冬季の感染症インフルエンザや夏季のアウトドア活動で注意

しなければいけない毒虫などについての講演会を開催し県民の公衆衛生に関する意識向上と衛生研究所のアピールに努めてきました。

感染症や食中毒の原因微生物の遺伝子解析法に関する研究成果が、疾病の迅速な原因究明、効果的な疫学調査などによる食中毒及び感染症予防対策に還元されている他、温泉など公衆浴場でのレジオネラ実態調査結果が保健衛生行政の施策に繋がるなど健康危機管理に関する試験検査・調査研究の成果は、行政施策の科学的根拠となり県民の健康確保、健康被害防止に大いに寄与しているところです。

このように衛生研究所は、その機能を十分に発揮するため健康確保と健康危機管理に関する行政と県民のニーズ把握に努め、重要課題に取り組んできましたが、今回の試験研究機関評価において公衆衛生向上のための試験研究機関としてのアピールに更に努力と工夫を望むとの評価を受けました。

衛生研究所は、がんセンター研究局との合築による施設の建て替え事業を進めています。衛生研究所に与えられた使命を効果的に果たし、機能を十分に発揮できる組織づくりに取り組むと共に広報活動にも一層努力していく所存です。このことは、将来、必ずや地域と住民にとって存在感のある試験研究機関になるものと確信しています。

## 違法ドラッグについて

### 違法ドラッグとは

違法ドラッグとは、法律で定められた言葉ではありませんが、麻薬や向精神薬には指定されていないもので、麻薬や向精神薬と類似した作用（幻覚や多幸感・快感等を高める）があるとして販売されている製品のことで、以前は「合法ドラッグ」や「脱法ドラッグ」などとも呼ばれていましたが、この名称では法律的になにも問題がないといった誤解を与える可能性があるということで、最近では「違法ドラッグ」と呼ばれるようになりました。違法ドラッグには麻薬や覚せい剤などの構造を一部変えた「デザイナーズドラッグ（ケミカル系ドラッグ）」や植物の葉や種子等の「植物系ドラッグ」などがあります。また、麻薬や覚せい剤などの乱用の契機となることも懸念されることから「ゲートウェイドラッグ（入門薬）」としても問題となっています。

### 製品の販売について

違法ドラッグは、規制を逃れるため目的を偽装（研究用試薬、芳香剤、アロマ、ビデオクリーナー、お香、観賞用植物標本等）して販売されています。形状は液体、粉末、固形、カプセル、植物の粉末、種など様々で、アダルトショップやインターネットなどにより手軽に入手することができる状況にあります。



様々な違法ドラッグの製品

### 違法ドラッグの危険性について

違法ドラッグは麻薬や覚せい剤と構造が類似して

いるため、麻薬や覚せい剤と同様の有害作用（精神毒性や依存性）を有している可能性があります。違法ドラッグによる中毒事例も増加しており、過量摂取したことによる死亡事例や乱用によって錯乱状態となり人を殺害した事例なども報告されています。このように安易に違法ドラッグを使用することは非常に危険です。

### 違法ドラッグの規制について

国では有害性が立証された物質（植物）については麻薬に指定し、厳しく取締りを行っています。違法ドラッグとして乱用されていたマジックマッシュルーム、5-MeO-DIPT や AMT などは、現在では麻薬に指定されています。しかし、次々と新しい違法ドラッグが出現し乱用されるため、平成19年4月1日から改正薬事法が施行され、中枢神経系に興奮・抑制・幻覚作用を及ぼす可能性があり、かつ人の身体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生する恐れがあるものを「指定薬物」に指定し、違法ドラッグの取締りが強化されました。平成19年12月20日現在、違法ドラッグ31物質と植物1種が指定薬物に指定されています。指定薬物は医療等の用途以外の製造、輸入、販売等が禁止されています。

### 千葉県では

千葉県衛生研究所では県民の健康被害を未然に防止するため違法ドラッグの試験検査を行っています。平成18年度はアダルトショップやインターネット等で購入した83製品を試験したところ、27製品から違法ドラッグ成分が検出されました。薬事法が改正された平成19年4月以降はインターネット等での販売は減少傾向にあり、また試験検査で違法ドラッグ成分が検出される製品も減少しています。しかし、新たな違法ドラッグが出回る可能性もあるため、安心はできません。千葉県衛生研究所では引き続き違法ドラッグの試験検査を強化していきます。

(医薬品研究室 長谷川貴志)

## 気候温暖化と千葉県の衛生動物

### 1. 気候温暖化と動物の活動

気候温暖化の生物に及ぼす影響が注目されていますが、人の健康にかかわる衛生動物にも多くの事象が見られます。虫の世界で観察される温暖化現象とは、見なれぬ虫の発見（生息域の変化）や季節外れの出現（季節消長の変化）という常とは異なる虫の活動でしょう。小文では近年、千葉県の衛生動物で観察されたこのような現象を紹介します。

### 2. 生息域の変化（生息限界の北上）

南西～北東方向に長い日本列島では、生物の生息域の北上（東進）が話題になりますが、千葉県にもこの変化が注目される動物がいます。

**アシダカグモ**は脚を広げると大人の掌にも余る大きなクモですが、不用意につかまなければ咬むことはありません。1968年に初めて千葉市の住民から相談がありましたが、当時の分布域は東が神奈川県までといわれていました。ライフサイクルが長いクモで急速な分布域の拡大は難しいと思われませんが、98年に佐倉、2001年に佐原、02年に柏など県北地域で相次いで見つかりました。アシダカグモは千葉県が生息北限といわれるクモですが、北限は既に茨城県に移ったと考えてよいでしょう。**タカサゴキララマダニ**は西日本のマダニ被害の主要な原因種であり、東京都以西の温暖な地域が生息地とされています。2000年頃、房総丘陵の野生シカ調査者に被害が発生し千葉県での生息が確認されましたが、県内への侵入は狩猟獣の人為的な放逐が疑われています。体長が7mmをこえる大きなダニで、千葉県産では最大とされてきたオオトゲチマダニと比較するとその巨大さがわかります（写真）。**クリイロコイタマダニ**は亜熱帯地域に普通のダニで、日本では沖縄県に多く見られます。飼育犬の移動により分布が拡大するといわれ、東京、大阪などの都市部で散見されていますが、千葉県では2007年に千葉市内で飼育されていた犬に寄生が認められました。新たに見つかる一方で温暖化により姿を消すと思われる虫もいます。**アラトツツガムシ**は北日本に多い寒冷地性のダニですが50年代には県内各地で採集されました。しかし1983年以降は全く採集がなく、生息地の乾燥化により姿を消したものと考えられます。



タカサゴキララマダニ(右)とオオトゲチマダニ(左)  
1目盛りが1mm

### 3. 季節消長（活動型）の変化

虫の活動の初発日は気温の記録との比較により、温暖化の影響が容易に推測できます。**メスアカケバエ**は黒色・中型のハエで、雌の胸と腹が赤褐色であることからこの名があります。初夏に草地で大発生し、付近の人家の外壁や洗濯物に集まり騒ぎをおこします。千葉県では大規模宅地開発が始まった70年代より注目されていますが、当時は5月上旬に発生する虫でした。90年代には大型連休前の発生になり、2000年代に入ると4月中旬に普通に見られるようになりました。同様に出現時期が早くなった虫の例として**ハマベアナタカラダニ**があげられます。

### 4. 衛生研究所の害虫相談業務

2007年は冬～夏の気温が観測史上最高だったといわれ、この影響を受けて**コガタアカイエカ**の活動が4月早々に始まりました。**ヤマビル**の活動も活発で16年間の観察で定点調査地の生息密度は最高になりました。しかし紹介した事例は一時的な現象かもしれませんが、温暖化の影響を知るために長期的な観察が欠かせません。衛生研究所ではカやマダニ、ヤマビルなど千葉県の衛生動物の生息情報を集めていますが、これだけで温暖化の影響を評価するのは難しいでしょう。医動物研究室には毎年100件近くの害虫相談がありますが、紹介した事例の多くはこの一般からの相談を通して得られたものです。過去の相談記録を読み解くと、この中に千葉県の気候温暖化を裏付ける貴重な情報が見えてきます。今回は温暖化の問題を身近に感ずる衛生研究所の意外な仕事を紹介しました。（医動物研究室 藤曲正登）

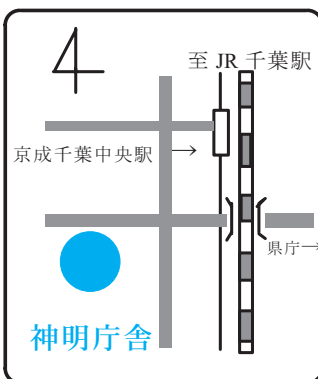
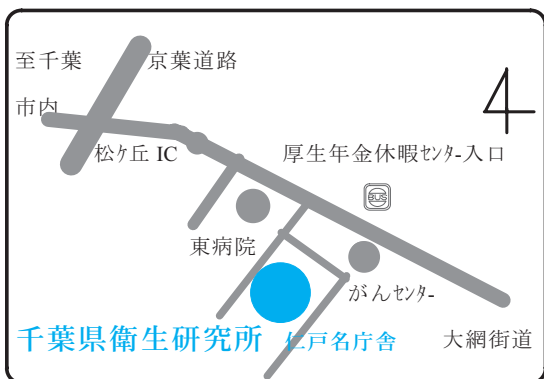
### 第46回千葉県公衆衛生学会発表演題

日時：平成19年2月21日(木) 場所：千葉市文化センター

- ◎ 22市町村の基本健診結果に基づくメタボ対象者の推定と推定値への影響要因  
柳堀 朗子 (健康疫学研究室) 他6名
- ◎ 千葉県における基本健診データ収集システム確立事業について (第4報)  
須田 和子 (健康疫学研究室) 他6名
- ◎ インターネットを活用した情報提供のあり方の評価に関する一考察  
ー健康福祉リソースセンター事業のホームページに関するアンケート調査からー  
小林八重子 (健康疫学研究室) 他3名
- ◎ アンケート調査へのマークシート方式導入の検討 (第2報)  
遠藤 幸男 (健康疫学研究室) 他3名
- ◎ いわゆる健康食品ー健康茶ー試験検査状況について  
高橋 市長 (医薬品研究室) 他4名
- ◎ いわゆる健康食品ー強壯剤・痩身剤ー試験検査状況について  
西條 雅明 (医薬品研究室) 他4名
- ◎ 生薬製剤中に含まれるセンナとダイオウのTLCによる判別  
石井 俊靖 (医薬品研究室) 他4名
- ◎ 違法ドラッグ試験検査状況について  
長谷川貴志 (医薬品研究室) 他4名
- ◎ 食品中のサルモネラの検出法について  
橋本レイコ (細菌研究室) 他1名
- ◎ 千葉県における「食品の食中毒菌汚染実態調査」の結果と解析  
依田 清江 (細菌研究室) 他3名
- ◎ 2007年千葉県の麻しん流行状況ー麻しん患者全数報告調査から  
小倉 誠 (感染疫学研究室) 他2名
- ◎ 2007年千葉県における麻疹の流行  
小川 知子 (ウイルス研究室) 他5名
- ◎ エコーウイルス30型による無菌性髄膜炎の集団発生  
丸 ひろみ (ウイルス研究室) 他4名
- ◎ サポウイルスによる急性胃腸炎の集団発生  
篠崎 邦子 (ウイルス研究室) 他6名

千葉県衛生研究所ホームページ [http://www.pref.chiba.jp/syozoku/c\\_eiken/index.html](http://www.pref.chiba.jp/syozoku/c_eiken/index.html)

千葉県感染症情報センターホームページ <http://www.phlchiba-ekigaku.org>



Health 21 No.18  
 千葉県衛生研究所情報 2008.1.21  
 編集・発行：千葉県衛生研究所情報誌  
 編集委員会  
 事務局：感染疫学研究室  
 260-8715 千葉市中央区仁戸名町 666-2  
 Tel: 043-266-6723 Fax: 043-265-5544